

1. 社会保障のこれから

4 保険の範囲がせまい 歯科医療

不況・雇用悪化などを背景に、経済的理由での歯科受診の手控え、治療中断などで「口腔崩壊」という深刻な実態が広がっています。

生活苦から無保険となり重度う蝕歯が多数ある中、正露丸をつめて歯痛を我慢。

経済事情から治療を放置しエナメル上皮腫が悪化し、重度う蝕歯も多数

窓口負担を払えずに治療を中断し、残存歯は歯根のみが多数の患者



全日本民医連「歯科酷書」より作成

これまで、国は歯科医療は命にかかわらないという考えで保険のきく範囲を広げてきませんでした。そのため、「お金がいくらかかるかわからない」という不安が、歯科受診の手控えに影響を及ぼしています。

1万人の市民に聞きました。

歯の治療には保険のきかない治療がありますがどう思いますか

今のままでよい

7.9%

91.6%

無回答=0.5%

保険のきく範囲を広げてほしい

保団連が行った「歯科医療に関する1万人市民アンケート」でも、9割以上の方が「保険のきく範囲を広げてほしい」と回答しています。歯科医療の保険範囲を広げることは、患者・国民の切実な願いです。

保険でより良い歯科医療を

口腔の病気が肺炎、心臓病、血管の病気、糖尿病等の引き金となったり、悪化させたりするなど歯と全身の健康が深く関係していることが明らかになりつつあります。保険のきく範囲を広げ、患者負担を軽減し、誰もが安心して歯科受診できるようになることが求められます。

新しい暮らし・経済のための提案

3



保険のきく範囲を広げ、命を守る歯科医療の充実を。